



TSK

きよどしや



No.72

発行：東北障害者団体定期刊行物協会 〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎 1-12-6
編集：社会福祉法人求道舎 〒039-2516 青森県上北郡七戸町字舘野 32-15
TEL：0176-62-3631 FAX：0176-62-3694 E-mail：kyudosya@ruby.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.kyudosya.jp

『神のみわざがこの人に』

新生釜石教会牧師

柳谷

雄介



2023 年 8 月、プリストル
大聖堂で聖歌隊に参加

弟子たちがイエスに尋ねた。「先生、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」

イエスはお答えになった。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神のみわざがこの人に現れるためである。（ヨハネによる福音書 9 章 2～3 節）

私が子どもの頃、父が牧師をしていた大船渡教会に高松さんという、目の見えないオルガニストがいました。点字で、聖書も賛美歌の楽譜も読まれました。「点字の

オルガン楽譜は、パート毎に音符が並んでいるのよ。（歌いながら）これがメロディ、これがバス、あとアルトとテノールを一緒に弾けば四声と音で弾けるわ」と教えてくれました。礼拝で奏楽される時、両手でオルガンを弾くためには、点字の楽譜に触れることができません。当然のように暗譜して来られるのでした。私は高松さんを見て、鍵盤を見なくてもオルガンを弾けるものだと思ったのみならず、高松さんの奏楽は、目が見えないからこそ、見える人よりも研ぎ澄まされた、豊かな音楽を奏でられるのだと学びました。ピアノの辻井伸行さんが有名

になる何十年前のことです。当時の高松さんと同じ年になった現在、暗譜して奏楽することがいかに大変なことなのかを思い知らされています。

20 年くらい前、大阪の教会に通っている時、筋ジストロフィー症の宮阪くんという同い年の友人がいました。知り合った時にはすでにベッドの上に寝たきりの生活でした。宮阪くんは、車いすに乗っていた頃に、ひっくり返って人工呼吸器がはずれて生死の境を彷徨ったことがありました。それ以来、神の声が聞こえると言ったのでした。「柳谷くんは牧師になるよ。俺は、祈りで牧師を支えろと神から命令されているんだ。」と笑って話してくれました。ある日、その預言が実現して、私は牧師になったのでした。

イエス・キリストは、障がいは、罪の裁きではないと言います。障がいとは、神のみわざが現れるためと言います。障がいを持つ方々は、人生の深みを教えてくれる先生なのです。

障がいを持つ方々が私たちの先生であるとは、どういうことでしょうか。先述のような私の体験からは、障がいを持っているからこそ、私たちが失いがちな感性を保持していて、人間の可能性を開

いてくれると思っています。私たちは、成長過程で、子どもの時に持っていた豊かな感性を失っていきます。でも、いわゆる障がいを持っている方は、その障がいのゆえもあって、ピュアだったり鋭い感性を持ったまま生きておられます。障がいを持っているからこそ、人を頼り、人と人をつなぐ役割を担う方もおられます。脳性麻痺を負って生まれた東大教授の熊谷晋一郎さんは、「自立とは、誰にも依存しないことではなく、依存先を増やすこと」だと言っておられます。人とつながることは人間としてとても大切な根源的な欲求です。

障がいを持つ方々と出会った私たちも、その方々を通さなければ受けることのできなかつた祝福を受けているのではないのでしょうか。もちろん、他人から受ける偏見もあります。自分自身が陥っている思い込みもあります。現時点では、しょうがないかもしれません。その先、そこから解放された先に、すべての命が尊ばれ、すべての命が輝く未来が待っていると信じています。障がいをもっている方々が暮らしやすい社会は、誰にとっても生きやすい社会になっているはずだからです。

法人単位資金収支計算書
(自)令和 5 年 4 月 1 日(至)令和 6 年 3 月 31 日
(単位: 千円)

勘 定 科 目		決 算	備 考
事業活動による収支	収入		
	就労支援事業収入 (落花生製品)	11,246	④
	障害福祉サービス等事業収入 (受託事業収入)	2,210	③
	(補助金事業収入)	136,444	②
	経常経費寄付金収入	724	①
	その他の収入	2,545	
	事業活動収入計	548	
	支出		
	事業活動支出計	150,783	
	事業活動資金収支差額	129,054	
設備整備による収支	収入		
	赤い羽根協同募金	21,729	⑤
	中央競馬馬主社会福祉財団	280	⑥
	施設整備等収入計	2,260	
	施設整備等支出計	2,540	
その他の活動による収支	収入		
	施設整備等資金収支差額	28,929	
	長期貸付金回収	△ 26,389	
	積立資産取崩収入	10,748	⑦
	その他	6,508	⑧
	その他の活動収入計	468	
	その他の活動支出計	17,724	
当期資金収支差額合計	その他の活動資金収支差額	2,862	
		14,862	
		10,202	

() 付きは内数

2023 年度決算を拡大鏡で見る 理事長 小原 義夫

求道舎にとって一番大事なことは、利用者たちに良い支援が出来たかどうかです。しかし、良い支援はお金の支えが無いと出来ません。お金は土台なのです。

昨年度の決算が出ました。例年の通り、6月の理事会と評議員会で承認をいただきましたので、一年が正式に終了しました。資金収支の結果は、別掲の表でお分かりの通り、1,000万円ほどの黒字となっていますが、実は2023年度は、資金的には嵐の様な一年だったのです。偶然もあり、多くのことが積み重なって、最終の結果になっています。本稿では、求道舎の台所事情を共有するために、普段みなさまには馴染

みが薄い分野かも知れませんが、決算内容を拡大鏡で細かいところまで見てみることにいたします。本文に入る前に、2023年度も多くの方々に支えられて一年を終えることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(1) 2023年度の事情

2023年度に特別だった事情は次の通りです。

(イ) コロナ禍の継続と一般化：新型コロナ感染の波が身近に押し寄せ、両作業所、グループホーム共各々数日間の閉鎖を余儀なくされ収入減になりました。

(ロ) 野辺地グループホームの建設開始：多額の建設費が支出されま

した。

(ハ) おおばこ作業所授産の業務の改革：主力であった長芋の皮むき作業に全面的に依存するリスクを考えて、仕事の多角化に挑戦しました。

(2) 収支結果

表をご覧ください。事業活動資金収支、当期資金収支とも黒字です。

(3) 黒字で終えられた要因(数字は表の備考欄の数字と一致します) 本業である事業活動(利用者の支援活動)の範囲では、①外部の方々からの寄付金、②県からの物価高騰補助金、③県からの「農福マルシェ」の委託事業などに助けられました。

また利用者たちの収入を確保する授産活動では、想定していた通り、外部実習の収入が減りましたが、④自主製品(落花生関連製品)の成長でカバーすることができました。事業を継続するための施設や道具の維持に関する施設整備の範囲では、⑤赤い羽根共同募金からの補助金、また幸運にも⑥中央競馬馬主社会福祉財団からの車購入のための無償補助金が決まりました。その他の活動の部分では、とても大きかったのは、⑦

長期の貸付金がこのらの譲歩と相手方の誠意によりほぼ予定に近い形で大幅に返済されたことです。これらに加えて必要時のために備えていた⑧積立金を取り崩して支出に当てました。

(4) 一年間でやったこと

(イ) 収支の黒字(お金が残りしました)

(ロ) 授産収入(利用者給料)の維持

(ハ) おおばこ作業所内の壁紙の張り替え。(職場が明るくなった)

(ニ) 送迎車の充実(1台増)

(ホ) GHたんぼの屋根の大規模補修(雨もり解消)

(ヘ) 野辺地GH(グループホームクローバー)の建設着手

(ト) おおばこ作業所隣地の入手(お隣の森ウメさんが寄付をしてくださいました)

(5) やれなかったこと

県の認証(青森県保育・障害福祉サービス事業所等認証評価制度)取得：これは県がこの制度を廃止したことに依ります。しかし取得準備を本格的に始めていましたので、人事考課規程や給与規程など改訂し、成果は挙がっています。

今回の報告は少し細かすぎたかも知れませんが、こうした細かな一つ一つのことが、積み上げられて全体の業績が出来上がっていることをご理解いただくためには、ご参考になったのではないのでしょうか？ これからも一つ一つの活動に心を込めて努力して参ります。変わらぬご支援をお願いいたします。

送迎車両の購入

中央競馬馬主社会福祉財団からの助成

おおばこ作業所

この度、中央競馬馬主社会福祉財団から助成金の交付を受けて、送迎用の車両を購入することができました。

きました。

おおばこ作業所がある地域はバスなどの公共交通手段が少なく、自動車がないと移動することが困難な所です。そのためほとんどの方が作業所の送迎車を利用しています。遠い所では、行つて帰って約50km。朝夕の2回の送迎で一日100kmの走行



購入した車両。雪国なので当然4WD車です。助成のプレートは玄関に掲示しています。



となりますので、車両の消耗もなかなかのもので、今まで何台もの車を乗り継いできました。

今回の助成で新車を購入できたことは大変ありがたいことでした。改めて感謝申し上げます。

【みんなで外へ出かけよう!!】

仕事の合間、心身のリフレッシュを図るために、外出してレクを実施しました。小グループでは、それぞれ買い物や食事、水族館や温泉を楽しみました。

そして、久しぶりにみんなで、プチ運動会（小川原湖青年の家）や馬とのふれ合い（駒つこランド）も楽しみました。やっぱり「みんなでレク」というのはいいものですね。

馬と



海岸で



買い物



プチ運動会



温泉



食事



クローバー作業所

【生活介護】

今回は生活介護の利用者さんの活動について紹介します。

生活介護では、作業が出来る利用者さんへの支援や余暇時間に行う創作活動などの他にも食事・入浴・排泄の介助や医療的ケアなど利用者一人ひとりのニーズに沿った支援を行っています。

利用者さんが楽しく穏やかに安心して過ごしていけるように、今後も利用者さんに寄り添った支援を続けていきたいと思います。



食事の介助・見守りをしています！



痰吸引を行っている様子



余暇活動の様子



作業がんばっています!! 作業のお手伝いもします♪



【新年会&お花見】

今年の新年会も利用者レクとして所内で開催しました。かるた大会やお菓子釣り、ビンゴゲームを行い、利用者さんも職員も楽しい時間を過ごしました。また、今年は加井榛華さんが20歳を迎えたので、成人のお祝いも一緒に行いました。加井榛華さんおめでとうございます！



4月には親の会レクで久しぶりにすたみな太郎と合浦公園に行ってきました。すたみな太郎ではお腹いっぱいになるまで食事を楽しみ、合浦公園では綺麗な桜を見ることが出来て、大満足のレクになったと思います。



利用者紹介

◎鎌田 幸汰郎さん

（クローバー作業所）



僕は、高等部の頃からクローバー作業所に来ていました。「クローバー!!」と叫びたいくらいクローバー作業所が大好きです。作業は、とにかくこぼしとフル

ーツキャップ折りを頑張っています。素敵に見せるようにもっと色々なことを頑張って、たくさん褒められたいです!!

オンブスマンの紹介②

クローバー作業所のオンブスマンは2名おり、毎月交代で来所していたれています。今回は遠藤章子さんを紹介します。

遠藤さんは普段は青森県手をつなぐ育成会事務局にお勤めし、研修や障がい児・者の地域活動支援の企画・運営等を行っています。ク

野辺地地区グループホーム 建設事業報告

春を迎え建物本体の建設が始まりました。基礎の上に柱が立ち屋根に覆われました。外壁に囲われ内部も仕切られ、部屋の様子がうかがえるようになり、立体的なイメージができ上がってきました。見に行くたびに完成に近づいていくのが楽しい状況です。



遠藤章子さんの似顔絵



ローバーでの面談時も利用者さんの困り事に、的確かつ分かりやすくアドバイスしてくれました。そんな遠藤さんですが写真は恥ずかしいということで、いつも面談をしている長濱鍵さんに似顔絵を描いてもらいました。

編集後記

▼株式会社が運営する障がい者向けグループホームの指定取り消し問題には心が痛みます。今後多くの方の生活の場を新しく確保していく必要が生じます。単なる行政処分では済まない大きな課題が突き付けられています。▼今年も暑い季節がやってきました。そんな中で作業に取り組んでいる利用者さんや職員。「働くって大変だなあ」と実感します。皆様もご自愛くださいませ。（伊瀬谷秀史）

社会福祉法人求道舎

◎七戸町

おおばこ作業所（就労継続支援B型）

TEL:0176-62-3631

グループホームたんぽぽ

TEL:0176-60-8012

◎野辺地町

クローバー作業所（就労継続支援B型）

生活介護事業所クローバー

相談支援事業所クローバー

TEL:0175-64-7559

編集者
発行所

社会福祉法人求道舎
東北障害者団体定期刊行物協会

T 039-2516

青森県上北郡七戸町字舘野 32-15

T 980-0874

宮城県仙台市青葉区角五郎 1-12-6

TEL0176-62-3631

頒価 100 円